

第44回全国公民館研究集会
第57回東海北陸公民館大会富山大会
第16回富山県公民館大会
記念講演

講演資料

講師

富山県射水市大島絵本館

館長 立野 幸雄 氏

令和4年9月8日（木）

富山の自然と文学 ～近現代文学（散文）を中心として～

射水市大島絵本館 館長 立野 幸雄

1 富山の文学の土壌

※文学作品←人々の生活（日々の営み） 生活←その地の環境（自然・文化）の影響
多彩な自然と文化は多彩な文学作品を生み出す。

(1) 豊かな自然

- ・立山から富山湾の高低差四千メートル[山岳・山麓・農村・市街地・海岸・海]
河川→早月川・**流程 27 km**、平均傾度 8.3% 片貝川・**流程 20 km**、平均傾度 8.5%
(セーヌ川・780 km 手取川・72 km 九頭竜川・116 km 長良川・166 km 富士川・128 km)
富山湾→最深部・**1200m以上** 日本三大深湾（駿河湾・相模湾）
海流→湾内に対馬暖流が流入 日本海中央にリマン寒流 水深300m→深層水
魚種→暖流系・冷水系・深海魚 **500種**（日本海800種） 天然のいけす
気候→対馬暖流の影響 都市部 2月 平均**2.5～3度** 最低 **-1度**
(長野市 2月 平均-0.6～-4度)

農作物→・林檎の南限、日本梨の北限

(2) 多彩な文化→日本の東西文化の共存圏

- ・ソバ文化圏とウドン文化圏 ・正月雑煮の切餅と丸餅

2 近・現代以前の主な文学作品

【上代】

- ・『万葉集』と大伴家持(在任746～751)

家持は、全20巻のうち巻17～巻19に自身の歌日記を残し、『万葉集』の全歌数4516首のうち**473首が家持ちの歌**で万葉歌人中第一位である。また、『万葉集』で確認できる27年間の歌歴のうち、**越中時代5年間の歌数が223首**で、彼の全作品の**45%強**である。越中万葉歌330首と越中国の歌4首、能登国の歌3首は、越中の古代を知るうえでのかけがえのない史料となっている。

- ・立山地獄谷信仰

「日本国の人びとは、罪を造って死ぬと、この立山地獄におちる」

『本朝法華験記』の(127) 平安中期、鎮源によって書かれた法華経効験説話集

『今昔物語』(巻17の27話 巻14話の7・8話)

【中古】

- ・和歌

『新葉集和歌集』宗良親王撰 **準勅撰和歌集** 1381年成立。20巻1420首

『李花集』宗良親王の**家集**。2巻。1374年頃成立か。親王の歌約900首等

(宗良親王)

後醍醐天皇の皇子。延暦寺では尊澄法親王と称し、天台座主となった。建武政権瓦解後に還俗、南朝勢を率い数十年に渡り、各地で転戦、越中滞在は3年に及んだ。

- ・謡曲

『善知鳥(うとう)』世阿弥作 ← **立山地獄谷信仰**

『藤』日吉安清作 ← 『万葉集』の「多祜の藤」(藤の名所・氷見の藤波神社)

『山姥』世阿弥作 (上路)

- ・軍記物

『太平記』(巻11 越中守護自害事付怨霊事) 北条氏滅亡時、越中守護・**名越時有**は二塚で恒性皇子を殺害し、放生津で滅亡する。その折り、妻女たちも入水して果てる。

【中・近世】

- ・俳句、漢詩 越中俳壇→浪化(井波瑞泉寺の住職) 芭蕉の直弟子
- ・漢詩 室鳩巢、廣瀬旭莊、頼三樹三郎等が越中を訪れて漢詩を詠じている。
- ・『奥の細道』松尾芭蕉 元禄2年に越中を訪れるが、知人がいないこともあり、2泊3日で慌ただしく通過する。

3 近・現代の主な文学作品

3 自然と文学

(1) 山と溪谷

- ア 針ノ木(越信)新道・有料→後立山連峰針ノ木岳の鞍部・針ノ木峠付近が舞台
- ・ウエストン『日本アルプス・登山と探検』(明治29年)
 - ・泉鏡花『さらさら越え』(明治32年)・大仏次郎『旅路』(昭和27年)
 - ・安川茂雄『黒部奥山軍記』(昭和35年)
 - ・河東碧梧桐、長谷川如是閑、窪田空穂、田部重治、中西悟堂等が訪れ、紀行文で紹介。

イ 信仰と電源開発→立山・剣岳と黒部峡谷

〈立山・剣岳〉

- ・新田次郎『剣岳・点の記』(昭和52年)

※【新田次郎の山岳関係作品】

- ・『チンネの裁き』『山の鐘』(昭和34年)・『薬師岳遭難』(昭和38年)
- ・『孤高の人』(昭和43年)
- ・田部重治『山と溪谷』(昭和4年)・幸田文『崩れ』(平成3年)
- ・野村尚吾『アルプスの見える庭』(昭和33年)
- ・森村誠一『恐怖の骨格』(昭和48年)
- ・大井冷光『天の一方』(明治42年)→山と童話

※【大井冷光の関係作品】

- ・『立山案内』(明治41年)・『越中お伽噺第一・第二編』(明治42年)
- ・『お伽七ツ星』(大正5年)・『ねんね子話』(大正8年)・『蜜柑船』(大正9年)・『あわて木兎』(大正10年)・『母のお伽噺第一・第二編』(大正8,9年)

〈薬師岳〉

- ・中河与一『天の夕顔』(昭和13年)・坂東眞砂子『曼荼羅道』(平成14年)

〈黒部峡谷〉

- ・冠松次郎『黒部』(昭和3年)・吉村昭『水の葬列』『高熱隧道』(昭和41年)
- ・木本正次『黒部の太陽』(昭和42年)

※ その他の電源開発〈庄川・小牧ダム〉

- ・高見順『流木』(昭和12年)・三島由紀夫『山の魂』(昭和30年)
- ・山田和『瀑流』(平成14年)・山田智彦『湖の墓』(昭和54年)

(2) 海と浜

ア 県西部

- 伏木・堀田善衛『夜来香』(昭和26年)『鶴のいた庭』(昭和32年)
『若き詩人たちの肖像』(昭和43年)
- ・室井犀星『美しき氷河』(大正9年)『あら磯』(大正14年)
- 氷見・横光利一『紋章』(昭和9年)・野村尚吾『浮標燈』(昭和49年)
- ・木崎さと子『沈める寺』(昭和62年)『光る沼』(平成8年)

イ 県東部

- 入善・柏原兵三・『祝言』(昭和43年)『長い道』(昭和44年)・『毛布譚』『浸蝕』(昭和45年)・『座棺』『同級会』『ある男の生涯』(昭和47年)

黒部・田中冬二『青い夜道』(昭和4年)

魚津・山村静『蜃気楼の町』(昭和44年) ・横山源之助『貧しき小学生徒』(明治27年)

ウ その他

・泉鏡花『舵取』(明治28年) ・森鷗外『山椒大夫』(大正4年)

・井伏鱒二『漂民宇三郎』(昭和29年)

4 生活と風習

(1) 祭り

八尾・五木寛之『風の柩』(昭和46年) ・高橋治『風の恋盆歌』(昭和60年)

※八尾関係・吉井勇『寒行』『流離抄』(昭和21年)

城端・秋山ちえ子『二人静』(昭和55年)

(2) 村での生活

中田・三島霜川『枯れ井戸』(明治31年) 『村の医者』(明治37年)

『霊泉』(明治38年) 『水郷』(明治39年)

福野〔井波〕・岩倉政治『稲熱病』(昭和14年) 『村長日記』(昭和15年)

『田螺のうた』(昭和38年) 『無告の記』(昭和58年) 『空気がなくなる日』(昭和22年)

井口・池田源尚『運・不運』(昭和15年)

小矢部・稲垣一城『小説チベット』(昭和39年) ・遠藤和子『オロロのいる村』(昭和48年)

(3) 町での生活

富山・源氏鶏太『英語屋さん』 『三等重役』 『花のサラリーマン』 『勇気凛々』

『手鏡』 『若鮎』 『春風駘蕩』 『みだらな儀式』 『青春の旅』 『共存共栄』

・小寺菊子『父の罪』(明治44年) 『朱蠟燭の灯影』(大正2年) 『河原の対面』(大正4年)

『哀しき祖母』(昭和3年) 『父の帰宅』(昭和9年)

・久世光彦『時を呼ぶ声』(平成4年) 『早く昔になればいい』(平成6年)

・宮本輝『蜷川』(昭和53年) ・井上靖『七夕の町』(昭和26年)

・野村尚吾『旅情の華』(昭和17年)

高岡・木崎さと子『裸足』(昭和55年) 『夏草』(昭和56年) 『楼門』(昭和58年)

『青桐』 『祝賀会』(昭和60年)

(4) その他

・辺見じゅん『花子のくこの歳時記』(平成3年)

・青木新門『納棺夫日記』(平成5年)

5 幻想と推理

(1) 幻想と恋情

・泉鏡花『義血侠血』(明治27年) 『蛇くひ』(明治31年) 『黒百合』(明治32年) 『湯女の魂』(明治33年) 『薬草取』(明治36年) 『星女郎』(明治41年)

・巖文兵『遠火の馬子唄』(昭和31年) 『妖盗墓』(昭和35年)

『天平のむらさき』(昭和39年)

・江戸川乱歩『押し絵と旅する男』(昭和4年)

・柴田錬三郎『蜃気楼』(昭和36年)

(2) ミステリー

・内田康夫『鐘』(平成3年) 『蜃気楼』(平成8年) 『風の盆幻想』(平成17年)

・森村誠一『青春の証明』(昭和51年)

・松本清張『疑惑』(昭和57年)

・小杉健治『もう一度会いたい』(平成19年) 『曳かれ者』(平成9年)

・永井すみ『枯れ蔵』(平成8年)

6 社会と歴史・騒動

(1) 社会

- ・横山源之助『日本之下層社会』(明治32年)『貧しき小学生徒』(明治27年)
- ・新田次郎『神通川』(昭和43年)

(2) 歴史・騒動

- ・村上元三『流雲の譜』(昭和50年) ・木々康子『蒼龍の系譜』(昭和51年)
- ・藤枝静男『凶徒津田三蔵』(昭和31年・戸出騒動)
- ・西野辰吉『鍋割月・一九一八年』(昭和43・年米騒動)
- ・井上紅花『塚越ぼんどり騒動』(明治37年・ぼんどり騒動)
- ・川村久志『土曜の夜の狼たち』(昭和47年・暴走族)

【芥川賞・直木賞関係】

【芥川龍之介賞】

- ・第26回(昭和26下) 堀田善衛(富山県高岡市伏木出身) 『広場の孤独』
- ・第58回(昭和42下) 柏原兵三(父が富山県入善町吉原出身)『徳山道助の帰郷』
富山関連作品『長い道』(疎開児をめぐる土地の少年たちの激しい愛憎を、戦争の影にゆれる海辺の村を背景に描き、少年期の鬱屈と憧憬を重厚に映し出す、自伝的長篇。
入善町吉原が舞台) 藤子不二雄A「少年時代」篠田正浩監督 井上陽水主題歌
- ・第78回(昭和52下) 宮本輝 『蚩川』
北陸富山での、落魄した父の死、友の事故、淡い初恋を描き、蚩の大群のあやなす妖光に生死を超えた命の輝きを描く。
(富山市が舞台) 『命の器「天の夜曲」』『田園発 港行き自転車』
- ・第92回(昭和59下) 木崎さと子 『青桐』
梧桐の繁る北陸の旧家で亡びてゆく肉体と蘇る心の交叉を描く。
- ・第163回(令和2上) 高山羽根子 『首里の馬』

【直木三十五賞】

- ・第25回(昭和26上) 源氏鶏太(富山市出身) 『英語屋さん』など

※【野村尚吾】芥川賞候補3回 直木賞候補2回 説新潮賞

明治45年富山市白銀町に生まれ、早稲田大学在学中から「早稲田文学」の編集に携わり、卒業後、毎日新聞社出版部に勤務し、週刊誌編集を担当した。昭和17年「早稲田文学」に発表した「旅情の華」が芥川賞候補となって文壇にデビューし、戦後、「遠き岬」(昭和25年)「花やあらむ」(昭和35年)が芥川賞候補、「乱世詩人伝」(昭和35年)が直木賞候補、「戦雲の座」(昭和38年)が直木賞候補と小説新潮賞を受賞し、「伝記谷崎潤一郎」(昭和47年)が毎日出版文化賞を受賞した。

※【啜文兵】講談倶楽部賞 直木賞候補

大正2年に金沢市で生まれ。幼い頃に父と死別し、母と石動に住み、昭和31年に『遠火の馬子唄』で講談倶楽部賞を受賞後、講談倶楽部に作品を多数発表し、「妖盗墓」(昭和35年)で直木賞候補となる。生涯で七、八十編の長短篇を書いたが、前記以外の代表作としては「恩愛遮断機」(朝日新聞・大蔵大臣賞)「越のむらさき」「天平のむらさき」「風の中の風塵」(昭和43・44年北日本新聞連載)など、その作品の多くは、氷見・能登・小矢部・砺波・富山・魚津などの郷土を舞台にしている。

※【恩田陸】

平成29年に『蜜蜂と遠雷』で、第156回直木三十五賞、第14回本屋大賞を受賞。
小学2年から小学5年まで富山市の五番町小学校に在籍。本名 熊谷奈苗

